

# 2023 年度日本建築学会大会（近畿） 建築デザイン発表会発表梗概 応募要領

会場：京都大学およびオンライン  
期日：2023 年 9 月 12 日（火）～15 日（金）

第16回を迎える「建築デザイン発表会」は、2023年度大会（近畿）・京都大学吉田キャンパス（京都市左京区吉田本町）で対面発表により開催する予定です（研究集会等、一部行事はオンライン開催）。なお、詳細については現在検討中ですので、最新情報や変更事項は、随時大会Webサイトにてご確認ください。

**発表申込み期間：2023 年 2 月 15 日（水）～4 月 5 日（水）16 時 59 分（厳守）**

・ **梗概集をオンライン化します。**

DVD 版梗概集を廃止し、オンライン上で閲覧・ダウンロードする方式になります。

・ **投稿時に講演発表者の会員資格（会員番号）が必要です。**

未入会の方は数日以上の上の余裕を持って入会手続きを行ってください。入会手続きが間に合わないと投稿できません。くれぐれもご注意ください。

・ **共同発表者（共著者）にも発表登録費が請求されます。**

必ず本人の同意を得て梗概を投稿してください。共同発表者（共著者）も必ず発表登録費を納入する必要があります（名誉会員を除き、発表登録費の免除制度はありません）。

・ **請求通知を電子化します。**

費用の納入は大会専用マイページ上にて請求金額を通知し、決済していただく方式となります（郵送での請求通知はありません）。

この建築デザイン発表会は、会員が設計・計画した建築デザインを発表・議論する場を大会のなかに設けて設計系会員の学会活動への参画を促し、設計系の実務者、教員、大学院生等に建築デザインの評価の機会を提供するとともに、実務・大学院等における設計教育、ひいては設計の質の向上に資することを目的としています。

ここでいう建築デザインとは、設計の論理性、工学的・技術的裏付け、実現した効率性・経済性の根拠等が明確なデザインをいいます。発表にあたっては、以上の主旨がよく伝わるよう表現してください。

建築デザイン発表梗概を下記の要領で募集いたしますので、以下の事項に十分ご留意のうえご応募ください。

- 1) 講演発表は正会員（個人）・準会員・名誉会員に限ります。  
ただし、講演発表者もしくは共同発表者に 2022 年度会費未納者、2007 年度以降の大会発表登録費未納者がいる場合は応募できません。
- 2) 建築デザイン発表会および学術講演会において、それぞれ 1 題（計 2 題）の講演発表が可能です。応募規程「3. 発表者の権利・義務」「9. 発表登録費」をご覧ください。
- 3) 講演発表者ならびに共同発表者は全員、発表登録費（表-1 参照）を納入しなければなりません。
- 4) 大会に参加する場合は、発表登録費とは別に大会参加費の納入が必要になります（講演発表者は納入が必須）。
- 5) 建築デザイン発表会は、公開の場で発表し議論されることを目的としていますので、必ず大会に参加し、講演発表を行ってください。欠席は発表とは認められません。
- 6) 代理の講演発表は一切認められていません。ただし、建築デザイン発表会、学術講演会の両方に投稿し、かつ相互の発表時間帯が重なった場合（半日単位）には、学術講演会の講演発表を行うこととし、当該の建築デザイン発表に限って共同発表者による代理の講演発表を認めます。
- 7) 締切後の原稿の訂正は一切認められていません。
- 8) 原稿執筆要領に示されている基準を大きく逸脱した原稿は不採択の対象となります。あらかじめ、応募規程「8. 建築デザイン発表梗概の採否」に記載の条項と照らしあわせて送信用の原稿をよく確認してください。とくに「原稿執筆要領」以外の環境で作成された PDF ファイルは、図・表・写真等が正しく表示されない場合があります。原稿送信後は必ず「梗概集原稿の確認」画面から確認してください。

- 9) テーマ部門では、当該テーマ部門の最終セッション終了後に全体ディスカッションを行い、招待講評者が優秀発表を顕彰します。テーマ部門の発表者は、当該テーマ部門の最後まで参加してください。
- 10) 発表申込時に各研究発表が貢献しうる SDGs の関連ゴールを選択のうえ応募ください。
- 11) 大会期間中、発表者（共同発表者含む）による懇親会を予定しております。
- 12) 本文の言語は、日本語のほか英語での投稿も受け付けます。英語専用の投稿サイトを設けますので、ふるってご応募ください。

**電子投稿の大会コードは半角小文字で kyoto です。**

## 応募規程

### 1. 対象

- a. 本会会員の設計・計画した建築デザイン（国外に立地するものを含む）とし、実施作品、計画案、大学、高等専門学校および専門学校の卒業設計、大学院の設計課題等を含む。
- b. 建築物の意匠設計ばかりではなく、構造、環境工学・設備、材料等の技術分野の設計、構工法・設計システム等にかかわる設計、まちづくり・景観・団地・広場などの都市・地域デザインや造園の設計、保存・修復・復元等の設計、インテリア・家具・ディテールのデザイン、その他建築にかかわる設計を幅広く含む。

2. **応募・発表資格** 発表者（講演発表者および共同発表者）の資格は次による。なお、いずれも 2022 年度会費未納者、2007 年度以降の大会発表登録費未納者は応募できない。

#### 2.1 講演発表者（〇印）

次のいずれかの条件を備えた者とする。

- a. 正会員（個人）・準会員（発表登録費〔表-1 参照〕を期限までに納入すること）
- b. 本会名誉会員

#### 2.2 共同発表者（連名者）

次のいずれかの条件を備えた者とする。

- a. 正会員（個人）・準会員（発表登録費〔表-1 参照〕を期限までに納入すること）
- b. 本会名誉会員
- c. 会員外（発表登録費〔表-1 参照〕を期限までに納入すること）

3. **発表者の権利・義務** 発表者の権利・義務は次のとおりとする。

- a. 講演発表者（〇印）は、建築デザイン発表会に出席し、一名 1 題、または学術講演会 1 題と併せて計 2 題の講演発表を行うことができる。
- b. 講演発表者は必ず大会に参加し講演発表をしなければならない。共同発表者による代理の講演発表は認めない。

- c. ただし、建築デザイン発表会、学術講演会の両方に投稿し、かつ相互の発表時間帯が重なった場合<sup>(注1)</sup>は、学術講演会の講演発表を行うこととし、当該の建築デザイン発表に限って代理の講演発表<sup>(注2)</sup>を認める。学術講演については代理の講演発表は認めない。

(注 1) 「発表時間帯が重なった場合」とは、半日単位で発表時間が重なった場合を指す。

(注 2) 代理の講演発表は、正会員（個人）、準会員または名誉会員であり、当該建築デザイン発表の共同発表者に限って認める。該当する者がいない場合には、代理の講演発表を認めない。代理の講演発表は、一名 1 題を限度とする。

- d. 共同発表者（連名者）は、名を連ねる梗概の題数に制限はないが、講演発表を行うことはできない。
- e. 講演発表者の出席・欠席および c 項による代理の講演発表は学術推進委員会に報告され、記録として保存される。また、欠席および c 項による代理の講演発表の講演番号は本会 Web サイトにおいて公表される。

4. **応募方法** 大会 Web サイトからの応募（電子投稿）に限る。大会 Web

サイト上での発表申込および発表梗概原稿の送信をもって応募とする。なお、締切後の原稿の訂正は一切認めない。

5. **応募部門** 応募部門は、テーマを定めない一般部門と、テーマおよび招待講評者をあらかじめ公表するテーマ部門のいずれかとし、建築デザイン発表申込画面の所定欄にて応募部門を選択する。

#### 5.1 一般部門

一般部門は、テーマの制約を設けない部門で、プログラム編成会議で発表セッション分けを行う。また、各セッションには、原則として運営委員が参加する。

#### 5.2 テーマ部門

テーマ部門のテーマおよび招待講評者は年度ごとに定める。2023 年度のテーマ・招待講評者は、次ページの「テーマ部門のテーマ・招待講評者」による。テーマ部門は 1 テーマあたり最大 20 題程度とし、招待講評者がプログラム編成時に選ぶ。なお、応募多数により、テーマ部門から一般部門へ移動する場合や一般部門からテーマ部門へ移動となる場合もある。

6. **発表方法** 発表方法等の詳細については、学術推進委員会から連絡する。

#### 7. 応募期間

**2023 年 2 月 15 日（水）から 4 月 5 日（水） 16 時 59 分（厳守）**

**（学術講演の締切日と異なるので注意してください）**

提出先：<https://www.aij.or.jp/jpn/d-taikai2023/>

8. **建築デザイン発表梗概の採否** 建築デザイン発表梗概の採否は、学術推進委員会が決定する。下記条項等に照らし大会建築デザイン発表梗概として不適当と認められるものは採択しない。不採択となった場合は 5 月 20 日までに本人に通知する。なお、提出された原稿は一切返却しない。

- a. 梗概に記された内容が著しく不十分なもの。
- b. 内容が商業宣伝に偏したもの。
- c. その他、応募規程、執筆要領に反するもの。

9. **発表登録費** 講演発表者ならびに共同発表者は全員、発表登録費（表-1 参照）を期限までに納入すること（請求は採否決定後に通知）。

- a. 共同発表の発表登録費は、題数によらず 1 題分とする。
- b. 名誉会員は免除する。
- c. 留学生の会員は発表申込み時に申請があれば減額する。

d. 講演発表者（〇印）は発表者を代表して共同発表者の納入の義務を果たすものとし、全員の発表登録費の納入がない場合は、当該研究の講演発表ができない。

- e. 発表登録費未納者は、2024 年度以降の学術講演会および建築デザイン発表会に応募できない。

#### 【注意】

- ・論文予約会員制度が終了し、大会発表登録費の免除制度も廃止された。したがって、従来の論文予約会員で講演発表者ならびに共同発表者は全員、発表登録費を支払う必要がある。
- ・発表登録費の返金は行わない。

表-1 発表登録費

	名誉会員	正会員・準会員	留学生(会員)**	会員外
1) 学術講演会で講演発表する者*	0円	9,000円	2,000円	— (発表不可)
2) 建築デザイン発表会で講演発表する者*	0円	9,000円	2,000円	— (発表不可)
3) 学術講演会/建築デザイン発表会の両方で講演発表する者*	0円	13,500円	3,000円	— (発表不可)
4) 共同発表者(講演発表を行わない連名者)	0円	題数によらず 9,000円	題数によらず 2,000円	題数によらず 13,000円

\* 講演発表は、学術講演会、建築デザイン発表会で各1題まで発表可能(「3.発表者の権利・義務」を参照)  
\*\*本会の会員で、かつ発表時に外国人留学生に該当し、発表申込画面の留学生項目において「O」を選んだ人を指す。応募締切後の別途申請は不可。

10. 大会参加費 大会に参加する者は、前記「9. 発表登録費」とは別に大会参加費を納入するものとする。なお、講演発表者は大会に参加し講演発表をしなければならぬため、大会参加費の納入が必須となる。

大会参加費および事前納入手続きについては本会 Web サイトおよび「建築雑誌」4月号に掲載する。

11. 梗概集 採択された研究発表梗概はオンライン版大会梗概集に収録し、頒布する。なお、発表登録費納入者は期間限定で大会 Web サイトよりオンライン版梗概集を無償でダウンロードできる。

#### 12. 著作権

- 建築デザイン発表梗概の著作権は応募者に帰属するものとし、本会は編集出版権をもつ。
- 梗概の複製権、翻訳権は本会に委託するものとする。
- 著作権の侵害等の問題は応募者がすべての責任を負う。建築デザイン発表梗概集は電子形態によって公開されることを前提に、写真等については他者の著作権を侵害しないように十分注意する。

13. 電子形態による公開 建築デザイン発表梗概集は、本会および本会が許諾した Web サイトから全ページが公開される。

#### 14. 講評等

- テーマ部門では招待講評者が2題程度の建築デザインを顕彰する。
- 大会終了後に招待講評者の講評を本会 Web サイトに掲載する。

### 費用納入について

発表登録費等の納入は大会専用マイページ上にて請求金額を通知し、決済していただく方式となります(郵送での請求通知はありませんが、請求書はマイページからダウンロード可能です)。

大会専用マイページにサインインするための情報は以下の電子メールアドレス宛に6月上旬頃までに通知します。

- 講演発表者：応募時に入力した電子メールアドレス
- 共同発表者(会員)：会員登録情報に紐づく電子メールアドレス
- 共同発表者(会員外)：2023年度大会用会員外登録時に入力した電子メールアドレス

共同発表者へのメールが不達の場合には、講演発表者に対し通知します。

### テーマ部門のテーマ・招待講評者

2023年度のテーマ部門のテーマ・招待講評者は、下記のとおりである。

#### a. 二刀流の建築：

岩佐明彦(法政大学教授)

この課題設定の根底にあるのは、災害時と平常時の両用を目指した「フェイズフリー」です。しかし、ここでは災害に関わらずもっと間口を広げ、複数の局面で活躍できる建築の可能性を問いたいと思います。

#### b. 文化を発信する建築：

前田尚武(京都市京セラ美術館企画推進ディレクター)

昨今、地域や企業、個人がもつ独自の文化をコンテンツとして発信し、来訪者が体験し、学び、交わる空間が多様化してきています。歴史的建築の保存活用から文化・教育・観光施設まで、建築が固有の文化を発信するためにデザインされた実作/提案を募集します。

#### c. 最適化技術・AIが成し遂げた(る)デザイン：

満田衛資(京都工芸繊維大学教授)

最適化技術・AIによるデザインをクレーバーなものと同う一方で、免罪符的に語られる状況も見受けられます。計算機能力が飛躍的に発達した現在、それにより何を達成しようとし、何を達成してきたかを披露し、議論の種としていただきたいと思います。

#### d. 技術の作家性：

中川 純(東京都市大学准教授)

建築は時代の要請を受ける技術的存在です。環境問題など時代の要請は多岐にわたりますが、このような時代だからこそ、枕詞を語るのではなく、判断の根拠を外部的にしない、純粋に技術を追い求めて生まれた建築について議論できればと思います。

#### e. 建築のお手入れ まちのお手入れ：

原田麻魚(MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO 代表)

標準設計化された建築では、プロセスにおいても完成後も「手」を入れることが少なくなってきました。一方で、都市は身体を置き去りに肥大化し、小さな「手」は無効化されているようにも見えます。建築あるいは都市への関与の形としての「手」を新しいかたちで取り戻すことで、その変容の可能性を問いたいと思います。

#### f. プロセスをデザインする：

渡邊竜一(ネイ&パートナーズジャパン代表取締役)

企画→設計→施工→運用・維持管理といったプロセスは、近代以降分離してしまい、計画者や設計者が横断的に関わり続けることは少なくなっています。考えること、作ること、つかうことを連続的に考えた建築や構造物を考えてみてください。それは環境時代の在り方につながるはずですよ。

### 原稿執筆要領

建築デザイン発表梗概原稿は、大会 Web サイトの書式例を参照のうえ、原稿執筆要領にしたがって執筆してください。

#### 1. ファイル形式

電子原稿は Adobe Reader で表示および印刷可能な PDF (Portable Document Format) ファイルで提出すること。

#### 2. ファイルサイズ(容量)の制限

ファイルサイズは3MB以内とする。3MBを超えたファイルは受信しない。提出するファイルは一つとし、圧縮ツールによる圧縮やセキュリティ設定はしないこと。

#### 3. ファイル名について

必ず拡張子(.pdf)がついているファイルとする。

#### 4. 作成するアプリケーションと OS

原稿を作成するアプリケーションの制限はない。OSは Windows 10 以上または macOS 10.15 以上を推奨する。

#### 5. PDF ファイルの作成方法

PDF ファイルは、原則として Acrobat DC 以降（または同等品）を用いて作成すること。作成方法についてはソフトに付属のマニュアルまたは Web サイト上の執筆要項を確認すること。

Acrobat の詳細については <https://www.adobe.com/jp/> をご覧ください。

## 6. 用紙設定

白地の A4 判 2 ページとする。ワープロソフト等で上マージン 15mm、下マージン 15mm、左右マージン 15mm、として設定する。なお、この基準から大きく逸脱した原稿は、執筆要項に反するものとして不採択となる場合がある。

## 7. 使用できるフォントの制限

投稿された PDF ファイルは Windows または Mac 上で稼働するオンライン版梗概集に掲載されるため、原稿内に使用するフォントは以下に限定すること。

OS	Windows (10 以上)	macOS (10.15 以上)
日本語フォント	MS明朝またはMSゴシック	MS明朝、MSゴシック、ヒラギノ
英字フォント	Arial, Century, Helvetica, Symbol, Times, Times New Roman	

※ どうしても他のフォントを利用したい場合は、PDF 作成時にフォントの埋込みを行ってください。

## 8. 記載方法

下記の項目をレイアウト見本に準拠して記載する。レイアウト見本は Web サイト上で提供する。

### a. 1 ページ目上段

- 表題、会員種別・発表者名（連名の場合は講演発表者を筆頭に記し、氏名の前に○印をつける）・所属を上段に記載する。ただし、本文が日本語の場合は、左段に日本語表記、右段に英語表記とする。本文が英語の場合は、左段に英語表記、右段に日本語表記とする。
- 連名者で、設計統括責任者・指導教員等を明示する必要がある場合は、その者の氏名の前に※印をつけることができる。※印を付した場合は、その役割を註記する。

### b. 2 ページ目上段

- 所在地（計画案の場合は適宜、とくに住宅等では建築主のプライバシーを考慮して表記する）、主な用途、敷地面積、建築面積、延床面積、キーワード、特記事項・データ等を上段に記載する。ただし、本文が日本語の場合は、左段に日本語表記、右段に英語表記とする。本文が英語の場合は、左段に英語表記、右段に日本語表記とする。

## 9. 設計趣旨・説明文

設計趣旨（600 字以上）・説明文は適当と思われる場所にレイアウトする。設計趣旨・説明文の文字の大きさは 8 ポイントを原則とする。

## 10. 図・表・写真等

図・表・写真等は適当と思われる場所にレイアウトする。図・表・写真等は原稿に貼り付けた状態で PDF 化し、別ファイルにはしない。発表者以外が撮影した写真等を使用する場合は、著作権所有者から許可を得るなど著作権に十分注意すること。

また、図・表・写真等の画像を含む場合、PDF 化することにより、出力品質が劣化することがある。ファイルサイズ制限内で、PDF 化する際のジョブオプションの値を高くして作成すること。

なお、原稿本文中に関連するサイトの QR コードを示すことは認めないが、参考文献中にサイト名と URL を記載することは構わない。

## 11. キーワード

発表申込画面に入力したものと同一キーワード 3～6 個を必ず記述する。用語は日本建築学会「学術用語集—建築学編」から選ぶことを基本とするが、適当な用語がない場合はこの限りではない。

## 12. 色使い

本文の文字は黒色とするが、図・表・写真等については色使いの制限は

ない。

## 13. 印刷の確認

作成した PDF ファイルは一度プリンターで印刷し、執筆者の意図どおり印刷されることを確認すること。

## 14. その他

応募上の注意、発表申込み入力要領、電子投稿要領における手順は、学術講演会と共通です。

## 会員番号・大会用会員外登録番号の取得

応募の際に、講演発表者の会員番号、および共同発表者全員の会員番号または 2023 年度大会用会員外登録番号の入力が必要です。

未取得の方がいる場合は次の方法により取得してください。

### a. 会員番号を取得する方（2023 年度大会で講演発表するために新たに入会される方）

**応募前に入会手続きおよび入会金・会費の支払い手続きを済ませることが必要です。数日以上の余裕をもってお手続きください。**

入会手続きは本会 Web サイト (<https://www.aij.or.jp/admission01.html>) から手続きを行ってください。会員番号の通知タイミングは、入会金・会費の支払い方法により異なります。詳しくは本会 Web サイト ([https://www.aij.or.jp/admission01.html#n\\_6](https://www.aij.or.jp/admission01.html#n_6)) をご確認ください。なお、正式な入会は理事会承認後になります。

### b. 2023 年度大会用会員外登録番号を取得される方

大会電子投稿サイト (<https://www.aij.or.jp/jpn/d-taikai2023/>) で取得してください。2022 年度大会以前に取得した会員外登録番号は無効です。

## ●2022 年度建築デザイン発表会「テーマ部門」顕彰者

【公共建築を「みんなの場所」にする】招待講評者：小篠隆生

- ・14041 西澤高男（ビルディングランドスケープ）・日高仁・坪井宏嗣
- ・14042 田中智之（熊本大）

【脱炭素社会に向けた建築やまのデザイン】招待講評者：高井啓明

- ・14191 福谷慈乃（千葉大）・齋藤大地・松浦健治郎
- ・14197 石田弘樹（飯田善彦建築工房）・古澤大輔
- ・14203 斎藤信吾（東京理科大）・池田理哲・西那巳子・茅野紗由・天野紗弥香・吉岡憲吾・ジョブラーン アフマド・古谷誠章

【「新しい内外の連続」をもった建築】招待講評者：山梨知彦

- ・14156 谷中駿太（竹中工務店）・郷田桃代・高佳音
- ・14158 藤貴彰（藤貴彰 + 藤悠子アーキテクチャー）・藤悠子

【お宝探検】招待講評者：富永祥子

- ・14145 福田凱乃祐（信州大）・寺内美紀子
- ・14149 岩堀未来（岩堀未来長尾亜子建築設計事務所）・長尾亜子・柿沼整三・鍋島佑基

【リユースできる建築構造デザイン】招待講評者：山田憲明

- ・14028 島和宏（岡山県立大）・小林弘樹
- ・14030 黒木一輝（滋賀県立大）・芦澤竜一・岡田大志・山田啓真
- ・14032 尾沢拓洋（東洋大）・八木美由樹・伊藤暁・高岩裕也

【「土地らしさ」を叶える建築】招待講評者：松田法子

- ・14179 上木翔太（三菱地所設計）・加野和奏・佐々木嵩・寺嶋啓介・小篠隆生・山脇克彦
- ・14184 野村涼ロバート（早稲田大）・大野宏・長野容平・小倉匠翼・永井拓生・長田剛和・山田宮土理

●2023 年度大会建築デザイン発表会運営委員会

委員長 杉浦 久子 (昭和女子大学)  
幹事 陶器 浩一 (滋賀県立大学)  
萩原 剛 (早稲田大学)  
古谷 誠章 (早稲田大学)  
委員 伊香賀俊治 (慶應義塾大学)  
伊藤 恭行 (名古屋市立大学)  
門脇 耕三 (明治大学)  
小泉 雅生 (東京都立大学)  
佐藤 淳 (佐藤亨構造設計事務所)  
佐藤 光彦 (日本大学)  
下吹越武人 (法政大学)  
羽鳥 達也 (日建設計)  
本杉 省三 (日本大学)